

シンポジウム報告

国際応用動物行動学会 (ISAE 2004) に参加して

森田 茂

酪農学園大学酪農学科

2004年8月3日から7日までの5日間、ヘルシンキ大学で開催された第38回国際応用動物行動学会議 (ISAE 2004) に参加した。

1. 国際応用動物行動学会とは

本学会は、1966年に集約畜産における行動的問題に対処するために獣医行動学会として発足した。その後、研究対象が家畜のみから人と関わるあらゆる動物へ拡大し、1990年には名称を、国際応用動物行動学会 (ISAE) に変更した。この学会では、家畜の飼育環境や家畜福祉研究、展示動物や実験動物の動物福祉、野生動物管理ならびに伴侶動物の問題行動の制御や福祉などが扱われている。

研究対象となる動物は様々であり、牛、豚や馬といった、いわゆる家畜のみならず、犬などの伴侶動物、マウスなどの実験動物を扱う研究者も参加している。研究内容は、生理学的反応を扱うものから、実際の現場での調査に基づく研究など様々である。共通項目は、「行動」であり、それに関わる全ての研究者が参加する学会である。

研究分野が「行動」であるためか、若手研究者や大学院生の発表も多く、毎回の参加人数も300名程度であり、ちょうど良い規模 (発表演題200題程度、2会場+ポスター発表会場) の、アットホーム (学会の形容詞として適切かどうか?) な国際学会である。



写真1 がんばる日本人。学会発表へのデビューが、国際学会でのポスター発表である当研究室の学生。みんな親切で、つたない英語でも何とかこなせる。

2. ISAE 2004の様子

プログラムの進行は、学会初日の Welcome reception に始まり、学会2日目午前の記念講演後には、見学会をはさみ、口頭およびポスター発表が行われた。毎回、その学会のメインテーマが決められており、今回のテーマは、「Feeding and Foraging behavior」, 「Environmental enrichment」, 「Behavior, health and production」であった。もちろんこれ以外にも Free paper での発表も可能であり、私自身もこの部門で発表した。

「応用動物行動学」という名称からして、畜産分野はどうなのかな? と思われている方も多いただろう。「家畜と飼育環境 (施設など) の関係を行動から解析する」を目指し、日夜努力している (つमりの) 私自身も最初に参加したときは、そう感じていた。しかし今では、この ISAE が欠かせない国際学会のひとつになっている。

たとえば、Free Paper で登録された発表のうちから、施設に関連した題材をとりまとめ Housing としたセッションも用意され、口頭発表も含め合計12題の演題が発表されていた。この中でスイスの研究者らが、牛床の傾斜度や牛床表面材と肉牛の横臥状況、牛体や牛床表面の汚れ状況について報告し、傾斜度5%の牛床が最も適していたと結論している発表では、牛床表面や牛体の汚れ評価などの手法が大変参考になった。もちろんこのセッション以外にも、施設 (特に休息場所) と行動に関する発表は行われており、Methodology (方法論) のセッションで発表されたドイツの研究者による「乳牛横臥行動の酪農場での評価」については、その目的が我々の研究内容ともよく一致し、現場段階で実施可能な行動調査法について、様々議論できた。横臥休息時の姿勢分類についての考え方や、分類された姿勢の意味などについて議論できたし、我々が実施しているビデオカメラを用いた起立動作解析を紹介することもできた。論文などの「書き物」交換などでは得られない交流が、国際学会の楽しみであり、ほんの少しでも行動に関わる研究を行っている、興味のある研究者なら誰でも楽しめる学会である。

また、自動搾乳システムの利用に関する演題も5題発表されていた。「放牧地から乳牛を個体ごとに誘導す

るための音刺激の利用」や「自動搾乳機での搾乳中の肢蹄障害測定」など、直接的に自動搾乳システムを評価するわけではないが、良いポイントを捉えた、ひとひねりした(そういった表現が発表の評価に適切か?)研究もあり、「そこが知りたかった」、「これは使える」といった内容の発表もいくつかみられた。

会期中には、口頭発表およびポスター発表以外にも、ワークショップと呼ばれる専門分野に分かれた討論会もあった。学会2日目の夜に開催され私自身は「跛行—行動的指標と測定法」と題したワークショップに参加した。「跛行の定義」論議に長い時間を費やす場面では少々うんざりしたが、話を聞けば、「なるほど定義の違いで問題は違うんだな」とか、牛のこと、乳牛のことしか考えていなかった私としては、「鶏の跛行」の説明を聞いたときには、「いい勉強したな」といった気分(?)になった。これも、学会参加の成果であろう。

国際学会では、久しぶりに会う顔、同じ研究分野を扱っている(名前だけは知っていた)研究者との交流、これまで気にもとめなかった研究発表に接する機会など、楽しいことがたくさんある。今回のISAEでは、特にそのことが体感できた。学会の会期中に乳牛飼養農家(自動搾乳農家)への見学会に参加し、フィンランドの牛舎のひとつを見ることができた。フリーストール牛舎ではあったが、牛床の構造など施設面ではたいしたことはなかった。フィンランド定番の「サウナと湖での水泳」も体験した。サウナは熱く、湖は冷たい上に、濁っていて汚かった。学会4日目に開催された夕食会にも参加した。こういった行事ではいろいろな国の研究者と交流もでき大変楽しいのだが、値段の割に料理の貧弱であること(一般的に物価は高い)ことなど、ちょっとがっかりしたことも事実である。

3. ISAE 2005 へのご招待

そんな国際応用動物行動学会が、2005年(今年)の



写真2 母子一緒のフリーストール牛舎。それまでの牛舎を改造して、自動搾乳機を導入したフリーストール牛舎。子牛は生後3週間程度、搾乳牛群の雌牛と同居し、その後、自動搾乳システムで飼養される。う〜ん? こういうのってどうなんだろう? 建設後、いくつかの改良は加えたとのことであるが、牛床構造としてはネックレール位置などあまりよろしくない。

8月20日から24日までの5日間、麻布大学を会場として、日本で開催される。それほど学会規模が大きくなく、アットホームで、ほんの僅かでも動物の行動に興味がある人なら、間違いなく楽しめ、有意義な学会である。

この参加記を掲載した学会報が出版される頃には、発表参加の申し込みは終了しているだろうが、発表をせずに参加したい方は是非、学会のホームページ

<http://www.ics-inc.co.jp/isae2005/index.html>をのぞいてみてください。そしてぜひ参加してください。